

あわよくば

2 MARK 勝負

選手と「近い」ことはそこまで「悪」なのか

住みにくい世の中になった。あー、住みにくい。SNSが普及し、プライベートが流出。それに群がり、顔が見えない者同士があーだこーだと批判や誹謗中傷を繰り返す。コロナ禍で「〇〇警察」なるものが流行ったこともあった。人間は、粗探しが好きな生き物だとつくづく思う。

本題。レーサーは「予想を生業とする者との私的交遊」が禁止されている。このことで真つ先に頭に浮かぶのが峰竜太。峰は交流を避けなければならないレースの予想を行う者とネット上で接触。選手自身のルールに対する理解不足によりポートルースの信用、信頼を失墜させたとして4か月の出場停止処分を受けた。八百長を想起させる行動だったためだ。

選手との私的交遊はあらぬ疑いをかけられる——。一理ある。ただ、その理論だと選手は、「予想を生業」とはしていないが舟券を買う友人や知人も交遊することはできないのではないだろうか、とも思う。

最近ファンの方によく聞かれることがある。「スポーツ紙の記者さんとかは、舟券を買えるんですか?」。答えは「イエス」だ。レースを見てピットで選手を取材し、コメントを取って予想とともに新聞に掲載するのが記者の仕事。なので「あれ?」

予想してるやん。選手が一番近くにいる人が舟券を買ったらダメなんじゃないの?」つて突っ込まれることが増えた。

でも買っていいんです。誰よりも近い場所で取材した情報を得ているにも関わらず。「取材を生業」としているから。当然、選手と飯を食うに行くこともある。その選手を知るためには必要な取材活動の一環だと思ってる。当然、そこに不正や八百長に加担するようなことは一切ない。情報発信者としての努力でしかないからだ。

ある会社のピットリポーターの女性が「私たち、舟券を買うことが禁止になりました」とこぼした。不正などあらぬ疑いをかけられないための措置で、ファンに対して公平性や透明性を担保するためでもある。ただ、個人的には「そこまでする必要あるの?」と思う。だって選手の数々にいる記者で回収率が100%を超えている者を見たことがない。大半、いや、全員が負けていると言ってもいい。選手に近い立場の人間だからといって、舟券で儲かるわけがない。不正などあり得ないから。偉そうなことを述べてきたが、もちろん私は「買う」人間。選手の情報やレースの面白さを世の中に発信すると同時に、選手と舟券に夢を見させてもらっているからね。(渡辺将司)